

地震が頻発する能登半島北東部で発生した
最大震度6弱(2022年6月19日)の地震前後での
周辺住民の意識・行動の変化と現状

Changes in the response of local residents to frequent earthquakes: The Noto Peninsula
and the earthquake of 6/19/2022

杉本 隼、千葉 和奏、井上 智也、大倉 結花
鍛冶谷 凜人、八木 伶磨、坂尻千夏、鈴木杏佳

Syun Sugimoto, Wakana Chiba, Tomoya Inoue, Yuika Ohkura
Rinto Kajiya, Ryoma Yagi, Chinatsu Sakajiri, Momoka Suzuki

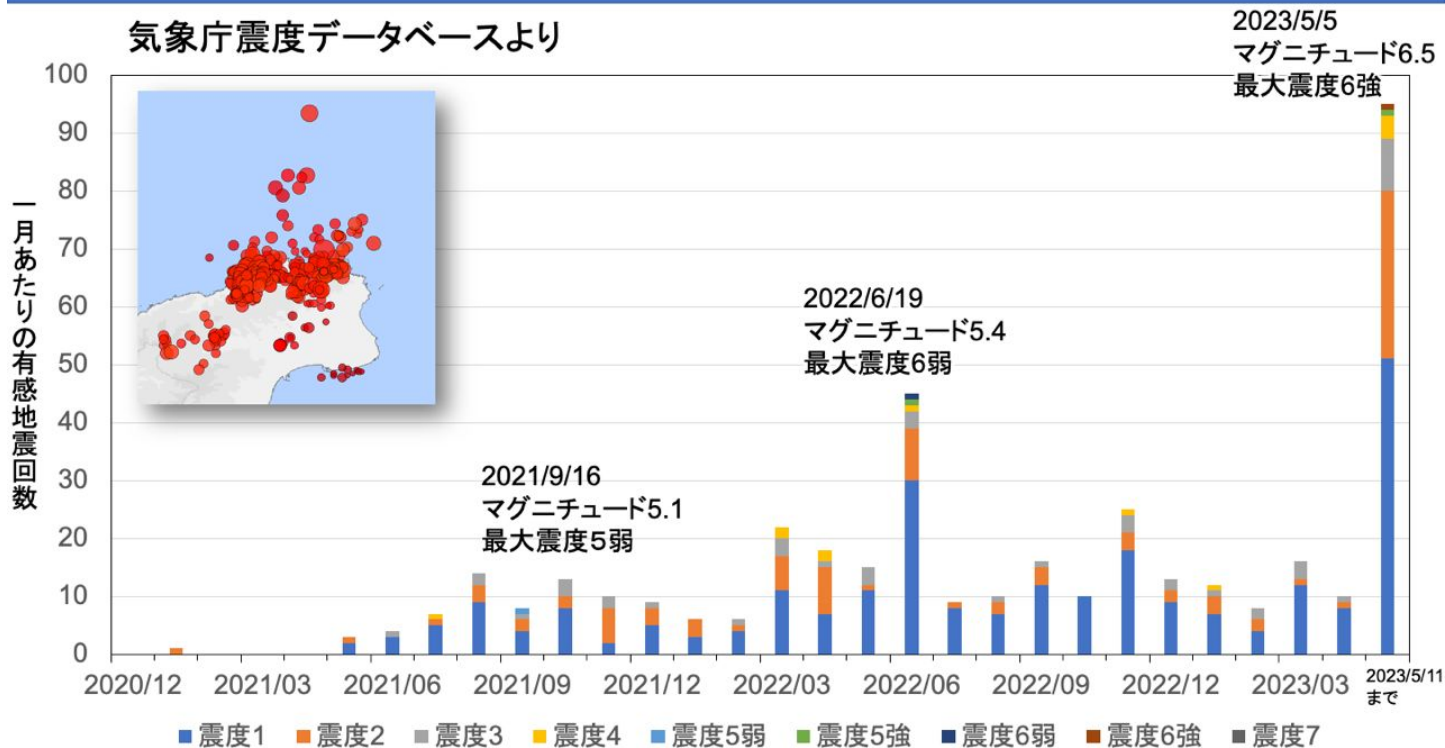
石川県立飯田高等学校

Ishikawa Prefectural Iida High School

1.はじめに

2021年9月16日の最大震度5弱(M5.1)や2022年6月19日の最大震度6弱(M5.4)や2023年5月5日の最大震度6強(M6.5)の地震では局所的な被害が生じた

2020年12月以降に珠洲市付近で発生した地震による有感地震数



調査の目的

最大震度6弱の地震前に行った住民の防災意識や行動についてのアンケートがあり(杉井・他, 2023, 地震2)、その後の最大震度6弱の地震(2022/6/19)で住民の意識行動に変化があったのではと考え行った2回目の地震津波防災意識に関するアンケート調査により、珠洲市及びその周辺住民の防災意識や行動の変化を調査し、現状と問題点を明らかにすること。

2.調査概要

方式: Google formsを活用したオンライン回答

回答者: 石川県立飯田高校の教員・学生・保護者

(一回目と二回目のアンケート)

珠洲市広報掲載のQRコードから回答した方

(二回目のアンケートのみ)

期間: 2022年5月18日～24日(一回目アンケート実施時)

(杉井・他, 2023, 地震2)

2023年2月1日～17日(二回目アンケート実施時)

飯田高校より地震津波防災アンケートのお願い

石川県立飯田高等学校 2年 ゆめかなプロジェクト地震防災探究グループ

私達は「総合的な探究の時間(ゆめかなプロジェクト)」の一環として金沢大学の平松良浩教授と村田晶助教や珠洲市危機管理室の方々にご協力頂き、珠洲市で起きている一連の地震について調べています。

この様な、地震津波防災アンケートは昨年5月に飯田高校生と保護者を対象に行いましたが、今回は市民の皆様へのアンケートとなります。

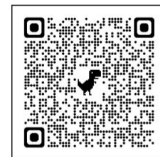
アンケートは下の「QRコード」から、QRコードが読み取り可能な端末よりアクセスしてください。答えられる範囲で結構です。

なお、このアンケートの結果はシンポジウムや学会・研究会での資料に用いるものであり、収集した個人情報は他の目的には使用しません。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

※締切は令和5年2月17日(金)です。



[QRコード]



アンケートの設問

Q1 奥能登の地震回数が増えたことが気になりますか。

→はい・いいえ

Q2 Q1ではいと答えた方にお聞きます。増えたことで、行動として変化したことはありますか。

→チェックボックスで複数回答

Q3 震度1～3の地震があったときに行動していることはありますか。

→チェックボックスで複数回答

Q4 震度4以上の揺れを体験したことがある方にお聞きます。震度4以上の地震があったときに行動していることはありますか。

→チェックボックスで複数回

Q5 非常時に持ち出すことができるように、必要なものをまとめていますか。

→はい・いいえ

Q6 Q5で「はい」と答えた方にお聞きます。具体的には何をまとめていますか。

→チェックボックスで複数回答

Q7 地震が起きた際の避難場所を把握していますか。

→はい・いいえ

Q8 家族との連絡が途絶えた場合の対策を決めていますか。

→はい・いいえ[※]

Q9 Q8で「はい」と答えた方にお聞きします。具体的な方法を教えてください。

→自由回答

Q10 地震に対して不安はありますか。

→はい・いいえ

Q11 Q10で「はい」と答えた方にお聞きします。どのようなことが不安ですか。

→チェックボックスで複数回答

Q12 お住まいの家は津波の想定区域内ですか。

→はい・いいえ・わからない

Q13 津波に対して備えをしていますか。

→はい・いいえ

Q14 Q13で「はい」と答えた人にお聞きします。具体的に教えてください。

→チェックボックスで複数回答

Q15 震度6弱の地震をうけて何かしたことはありますか。

→ある・ない

Q16 Q15で「ある」と答えた人にお聞きします。具体的に教えてください。

→複数回答

Q17 Q15で「ない」と答えた方にお聞きします。それはなぜですか。

→チェックボックスで複数回答

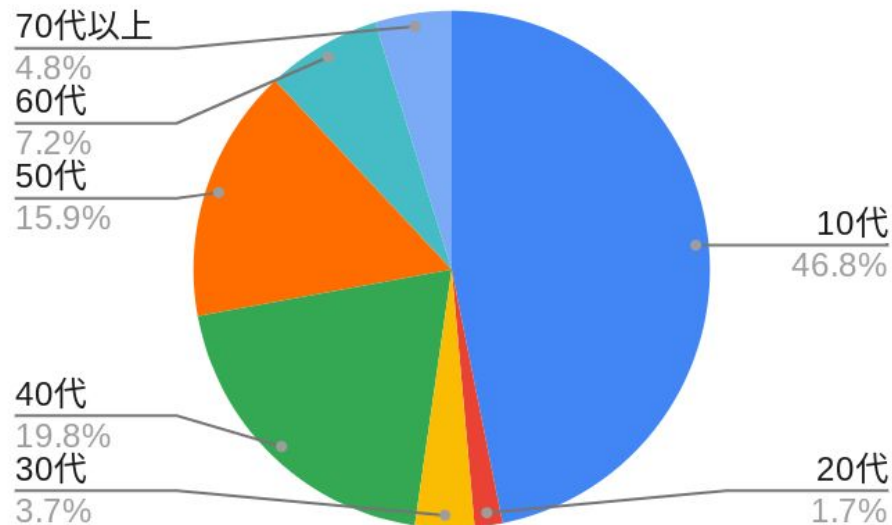
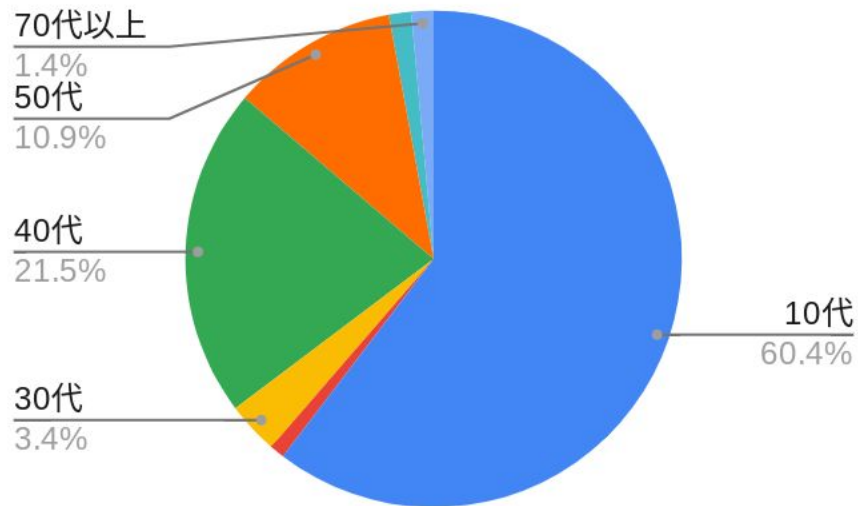
詳しいアンケート内容はこちら



○回答者の情報(年代)

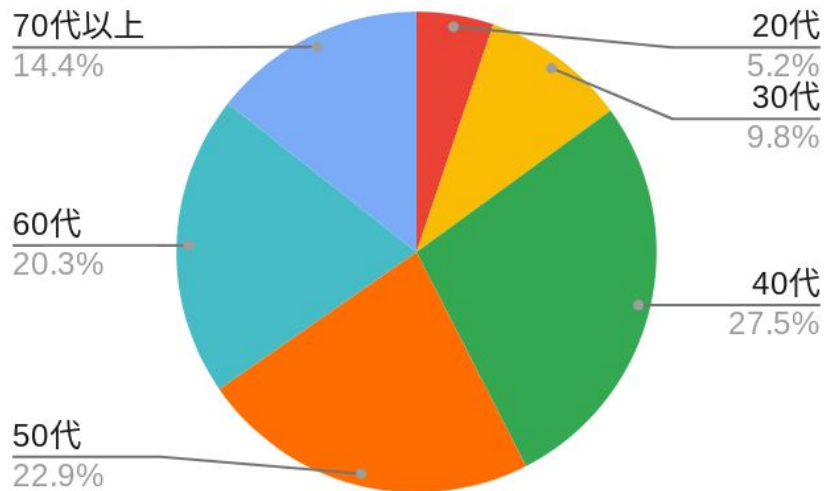
震度6弱前のアンケートの回答者は413人

震度6弱後アンケートの回答者は460人

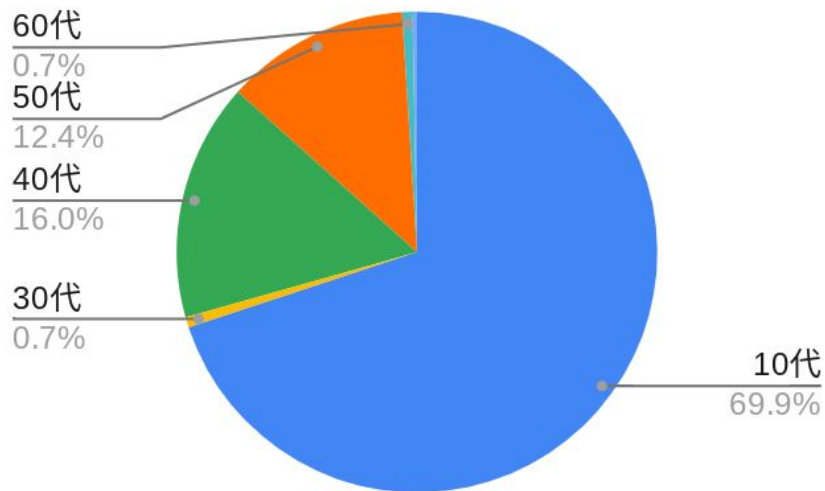


○回答者の情報【珠洲市広報掲載と学校関係者調査】

【珠洲市広報掲載】



【学校関係者調査】



○回答者の地域・区分・性別

- ・どちらも能登町が約3割・珠洲市が約7割を占めた
- ・珠洲の中でも小学校区域ごとに調査をしたが偏りはなかった
- ・どちらも女性が6割・男性が4割程度を占めた

(珠洲市男女比 46,226:53,774 → 女性の方が少し多い 参考:R3統計珠洲)

○震度6弱前後で割合に変化がなかった / 減少した項目

- ・地震に対する不安は震度で割合に差はなかった。

→不安あり:どちらも約88%

- ・津波に対しての備えの割合も差はなかった

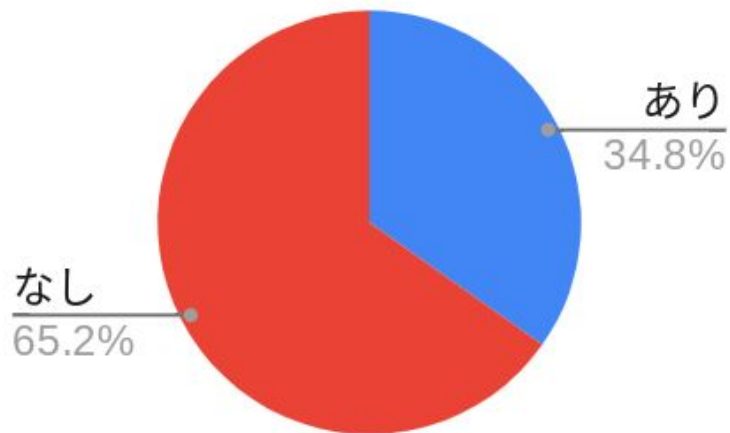
→備え有り:どちらも35~45%
二回目の方が10%程度減少

○地震活動による行動・意識変化

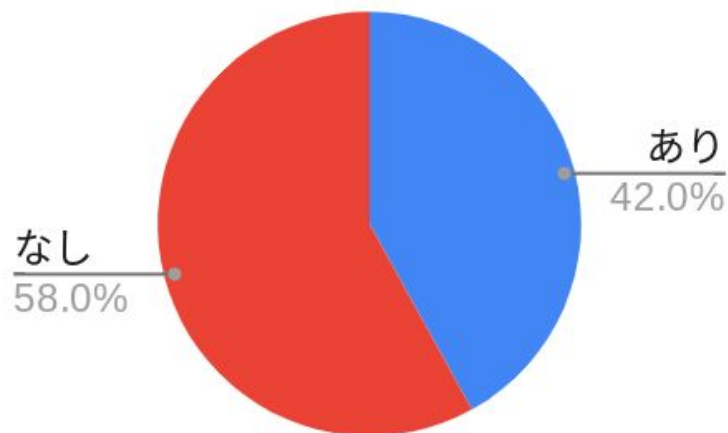
Q15.震度6の地震を受けてなにかしたことはありますか。

・非常用持ち出し袋の準備をしている人の割合

震度6弱前実施(1回目)

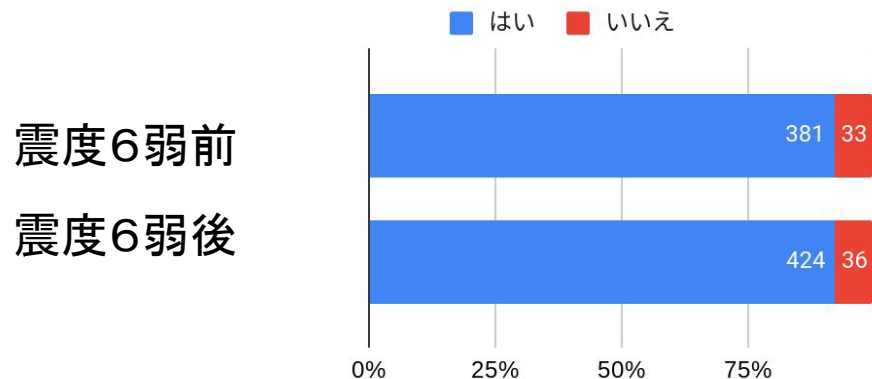


震度6弱後実施(2回目)



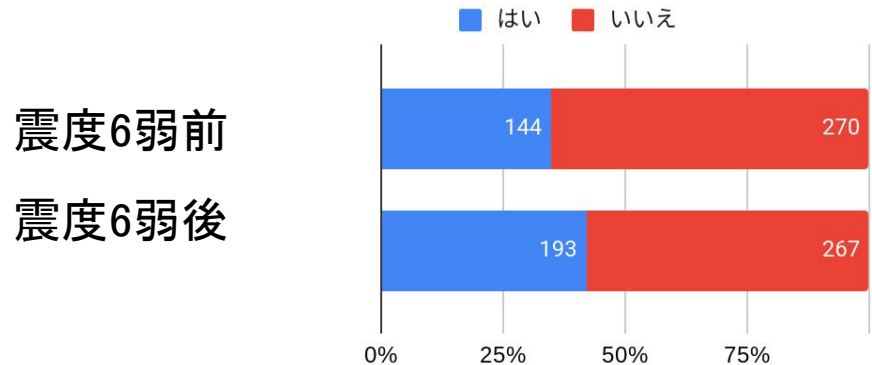
○震度6弱前後での変化(設問ごと・はいorいいえで回答可)

Q1 奥能登の地震回数が増えたことが気になりますか



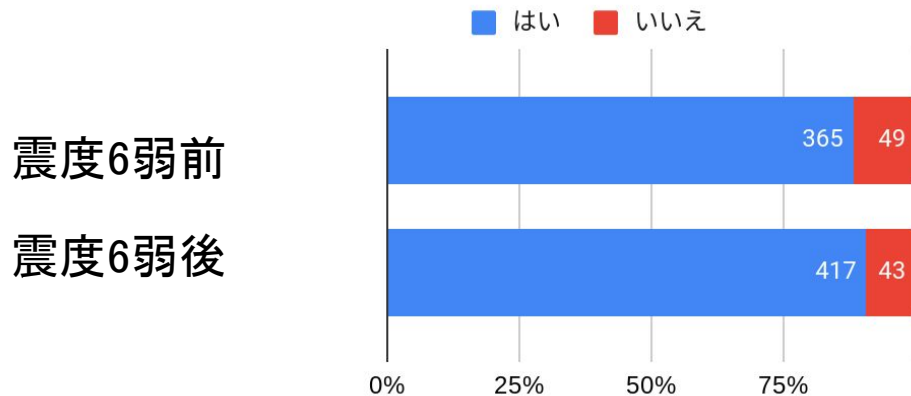
←どちらも「はい」
が98%を占めた

Q5 非常時に持ち出すことができるように、必要なものをまとめていますか



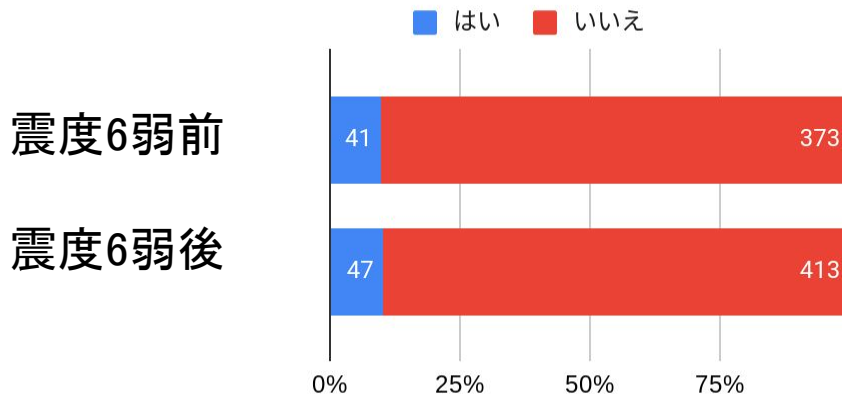
←「はい」の数が増えた

Q7 地震が起きた際の避難場所を把握していますか。



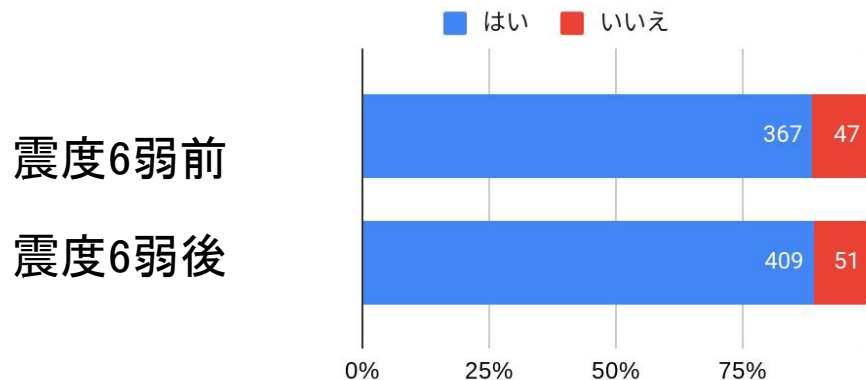
←避難場所を把握してる人は多い

Q8 家族との連絡が途絶えた場合の対策を決めていますか。



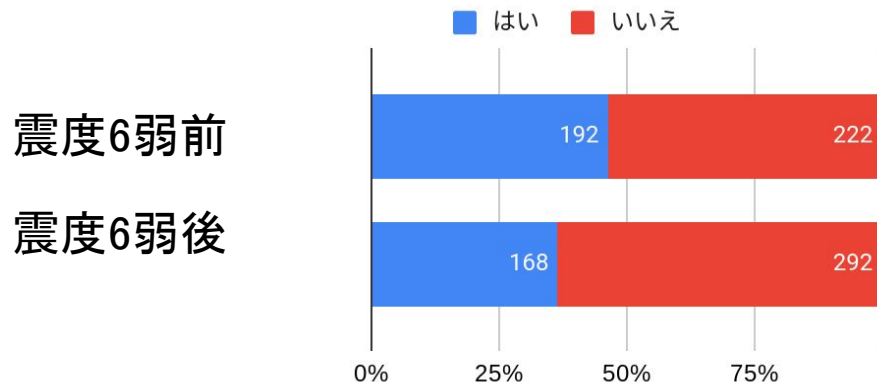
←あまり変化していない

Q10 地震に対して不安はありますか。



←どちらも「はい」の数が多い

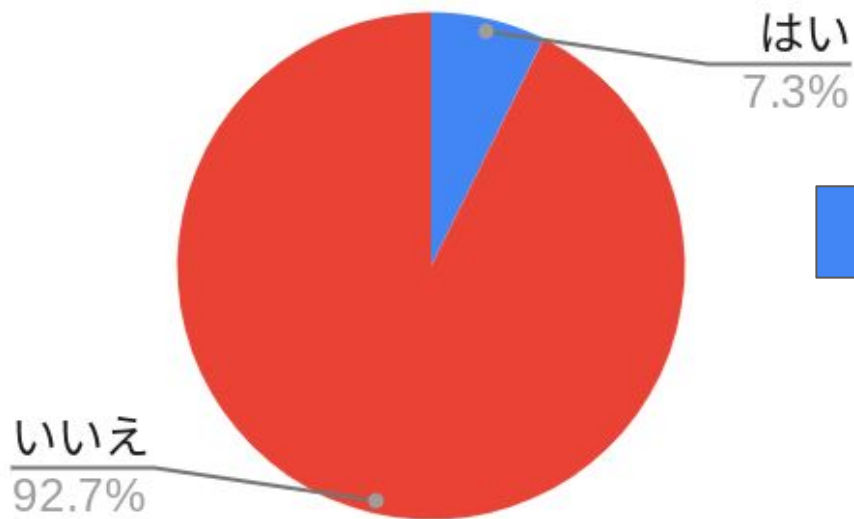
Q13 津波に対して備えをしていますか。



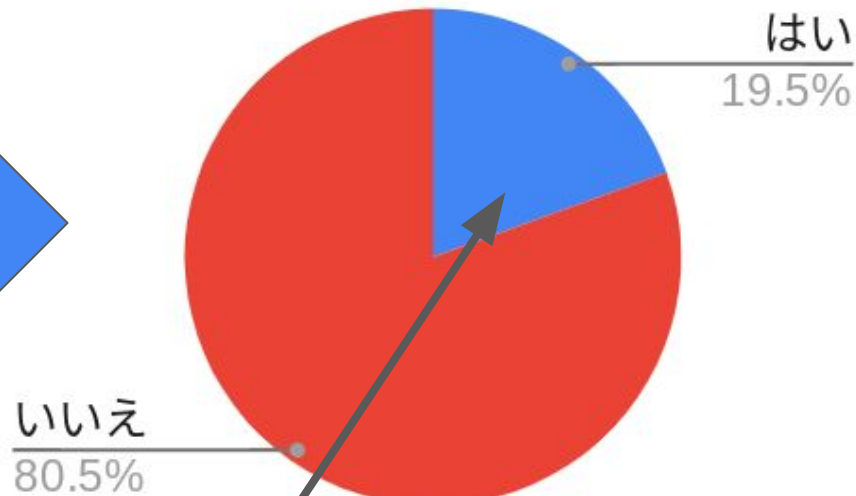
←備えをしている人の数が減った

○家具の固定をした人の割合

震度6弱前実施(1回目)



震度6弱後実施(2回目)

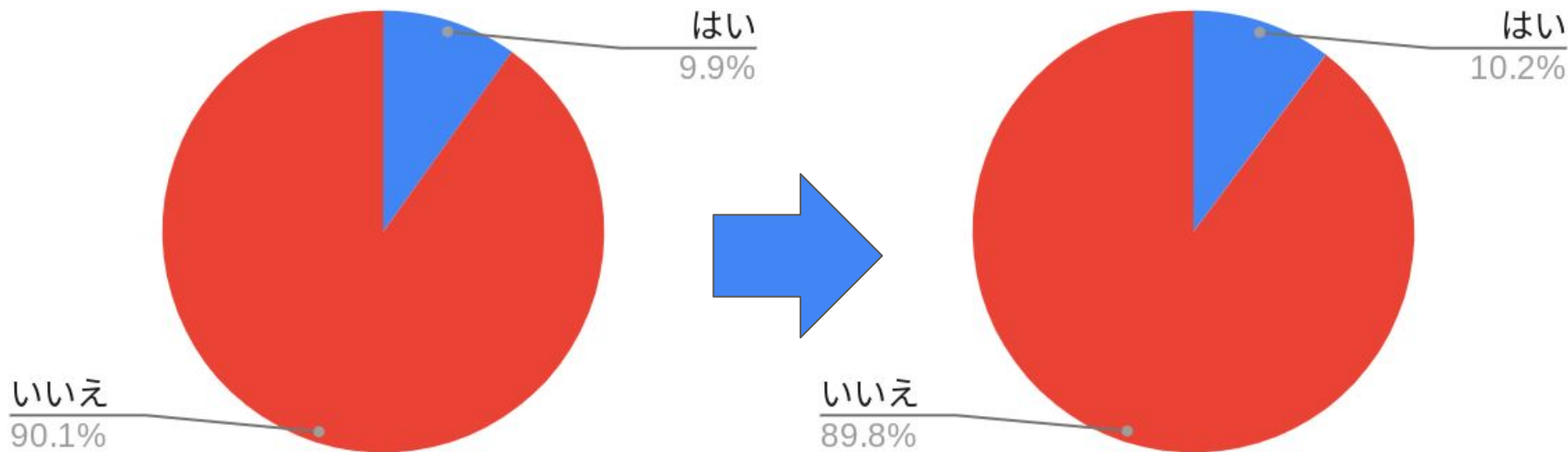


震度6弱を受けて対策に取り組んでいる人が若干名増えた

家族との連絡が途絶えた場合の対策を決めている人の割合

震度6弱前実施(1回目)

震度6弱後実施(2回目)



ほとんど変化なし

○震度6弱前後の変化を比べてみて分かったこと

回答者の年齢の割合が殆ど等しい石川県立飯田高校の教員・学生・保護者を対象として震度6弱前後の変化を比較したところ、

- ・非常持ち出し袋を準備した人の割合の増加
- ・家具の固定をした人の割合の増加

の2項目以外では大きな変化は見られなかった。

→震度6弱の地震があってもあまり全体として大きな変化は見られなかった

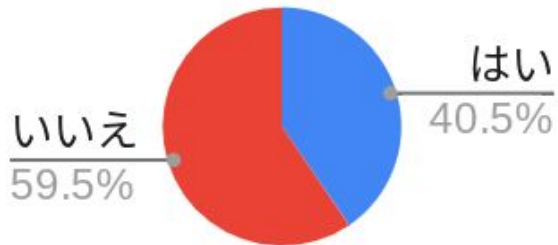
○地震時の対策(44件の回答)

- 32件→避難場所を決めておく
- 8件→専用アプリを使う
- 4件→とにかく生きる/自分の命を最優先にする

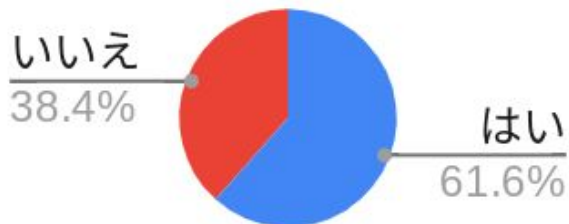
○年齢での違い【学生(10代・215人)と成人(20代以上・245人)】

①震度6弱前後の行動変化の有無

学生

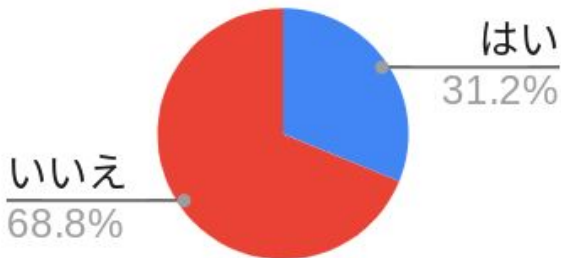


成人

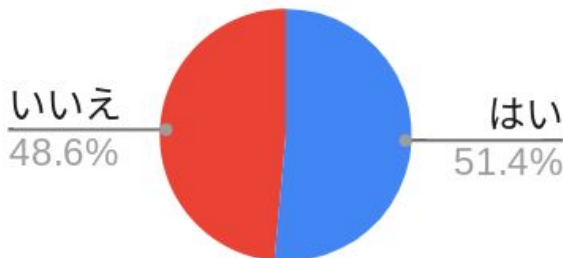


②非常持出袋の所持の有無

学生

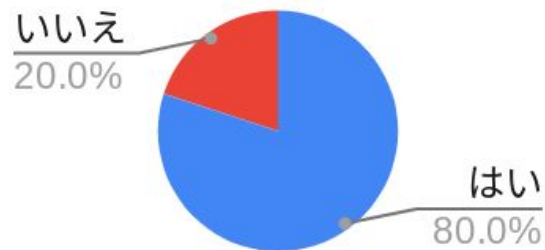


成人

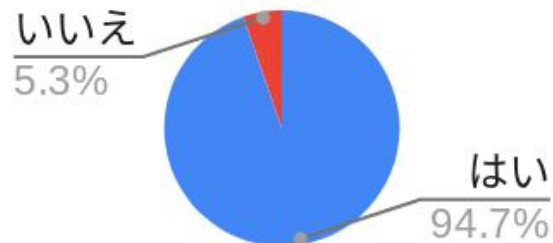


③地震に対する不安の有無

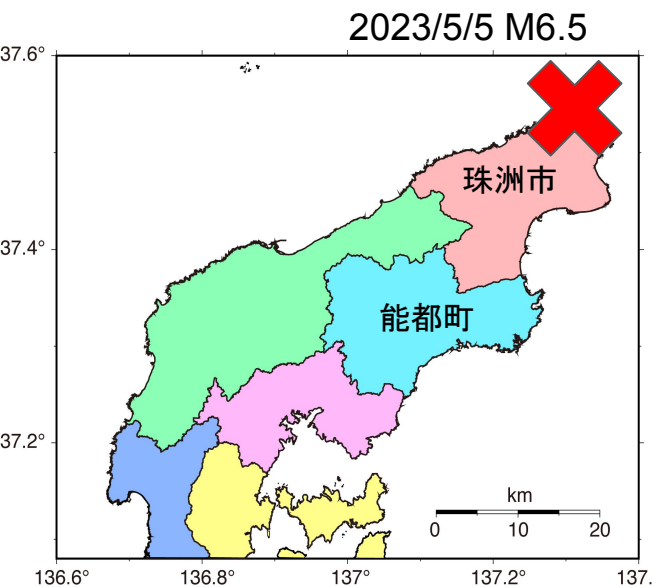
学生



成人

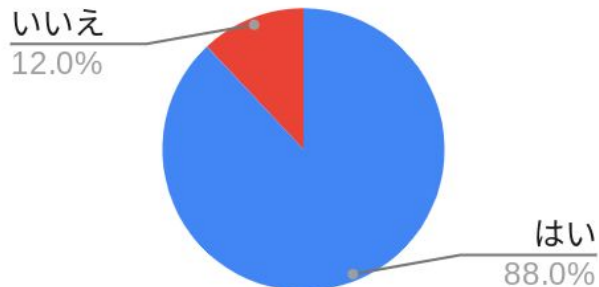


○地域での違い【能登町(115人)と珠洲市(338人)】

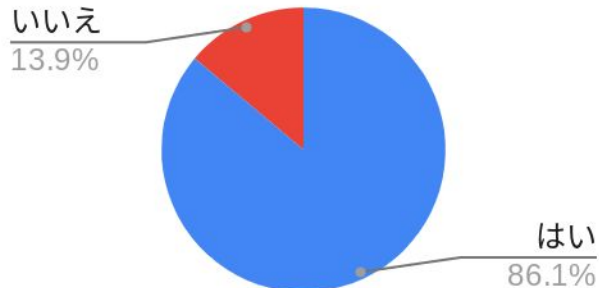


①地震への不安の有無

珠洲市

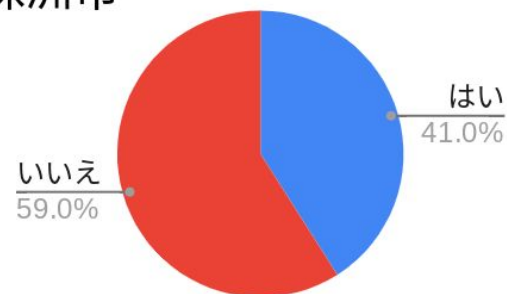


能登町

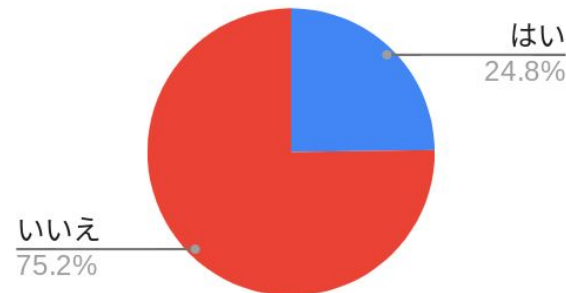


②非常用持出袋の所持の有無

珠洲市

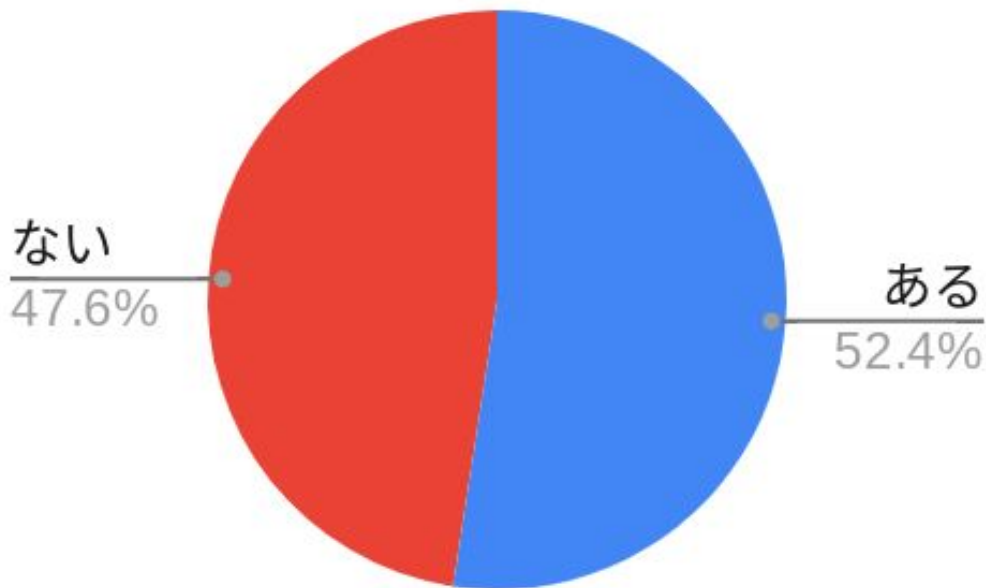


能登町



○震度6弱の地震後の行動の有無

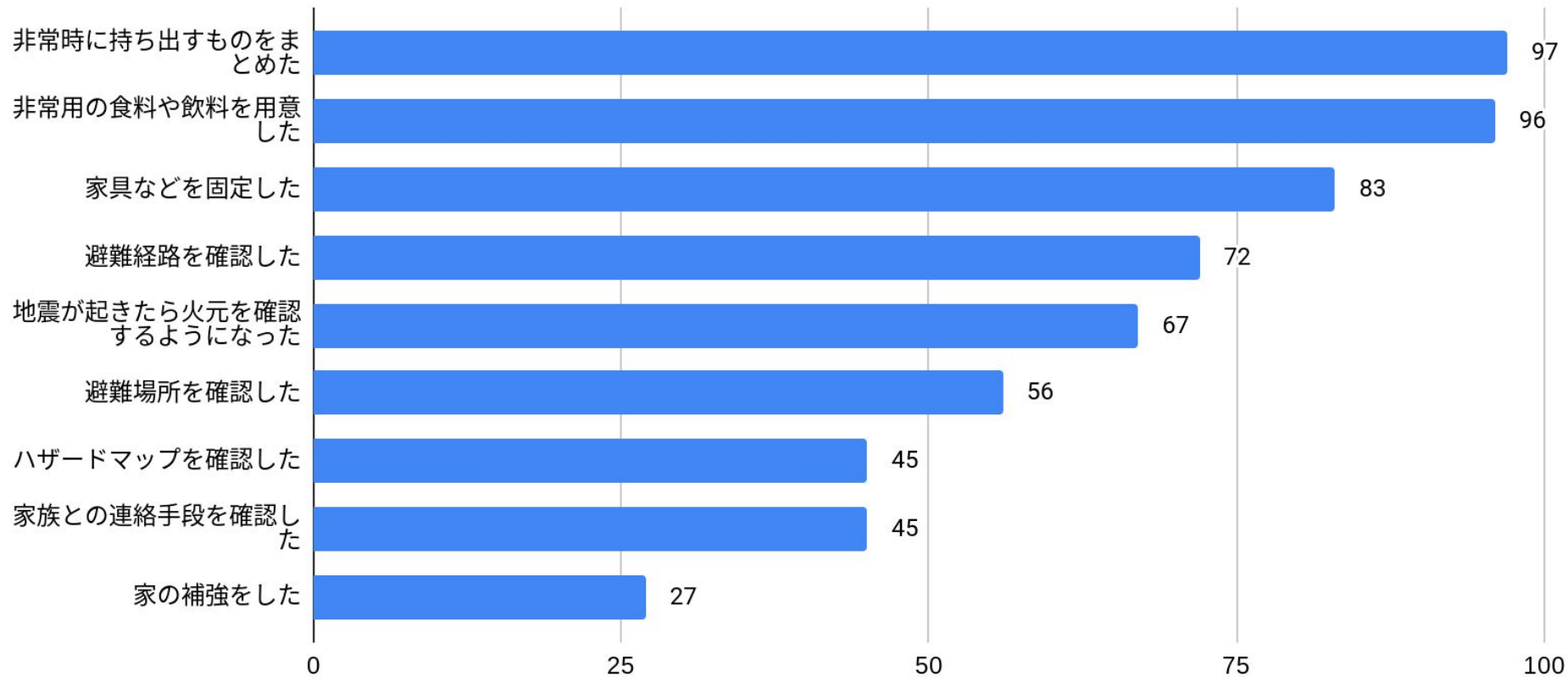
Q15. 2022年6月19日の震度6弱の地震を受けて何かしたことはありますか



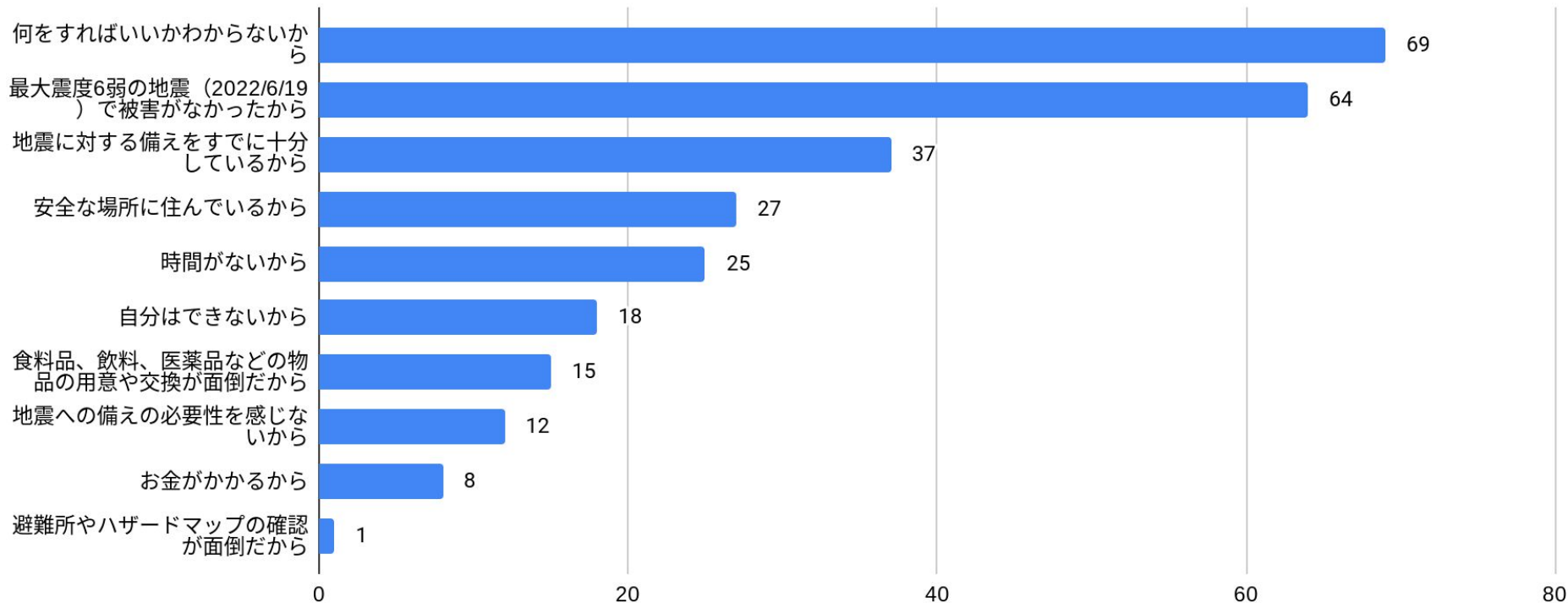
ある→何をしたか

ない→なぜしなかったのか

行動があった(246件)→何をしたか



行動がなかった(211件)→なぜしなかったのか



○自宅が津波の想定区域内かどうか→津波の備えの有無

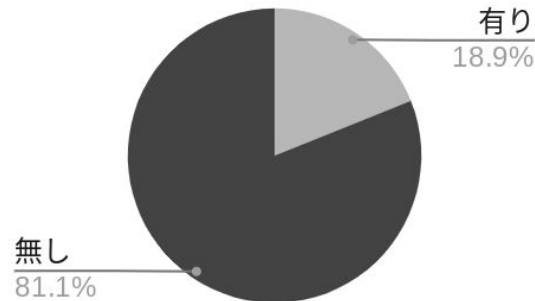
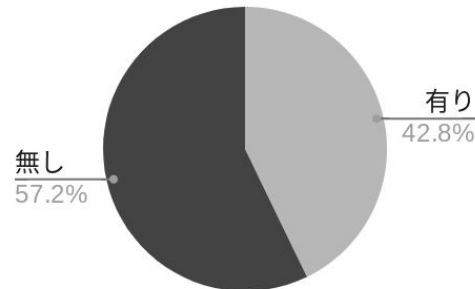
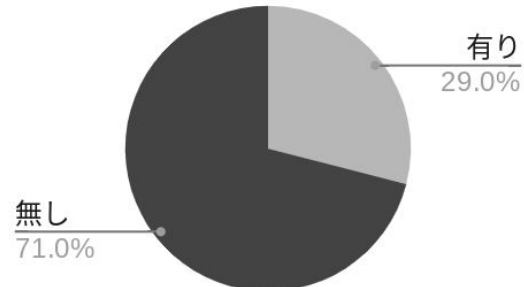
Q12 お住まいの家は津波の想定区域内ですか。

自宅が津波の想定区域内か

分からない(19.8%)

はい(50.9%)

いいえ(29.3%)

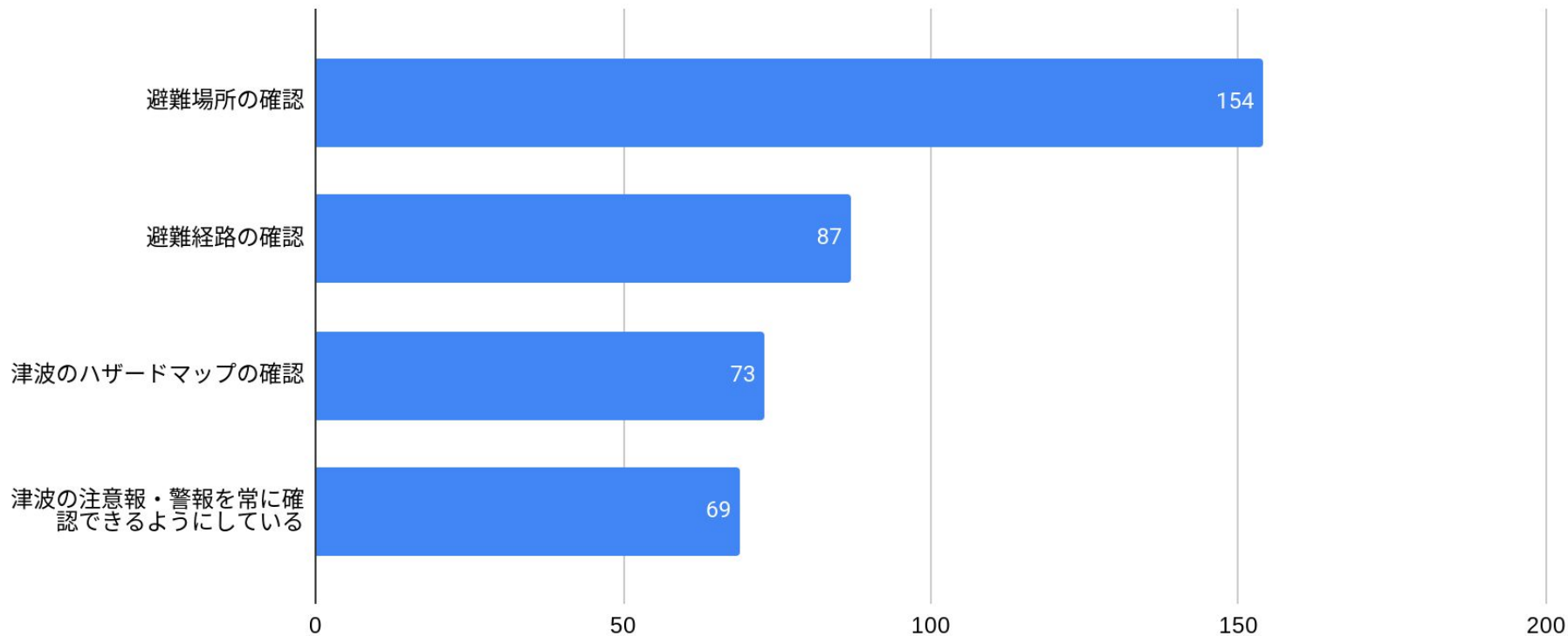


分からない
19.8%

いいえ
29.3%

はい
50.9%

はい→具体的に何をしているか

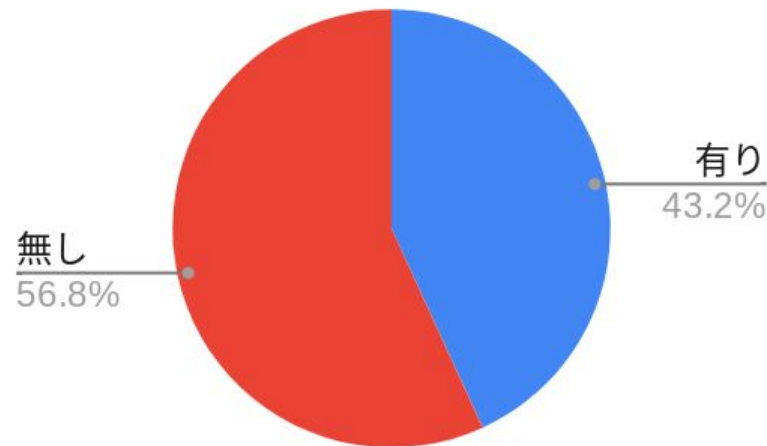
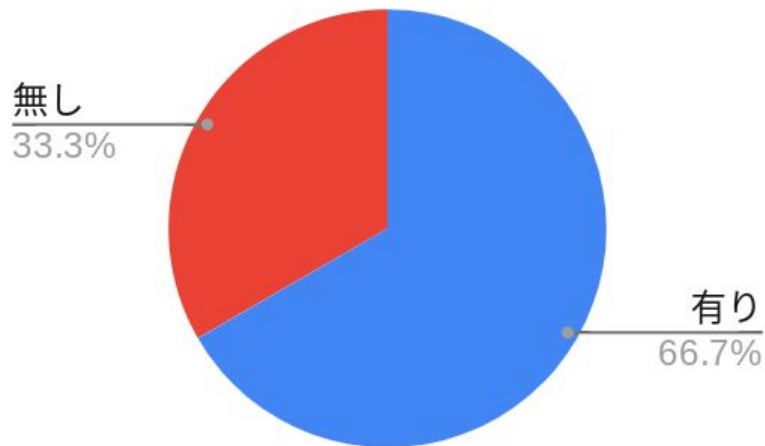


○津波の備えをしている人と震度6弱後に行動をした人の関連

→Q15. 2022年6月19日の震度6弱の地震を受けて何かしたことはありますか

津波の備えをしている人292件

津波の備えをしていない人168件



結果と考察

- ・震度6弱の地震前後では住民の大きな意識変化は見られなかった
→正常化バイアスが働いているのではないか 地震への慣れ
- ・年齢としては学生よりも成人の方が防災意識が高いことがわかった
→生活や家族を守る責任感の有無
- ・地域としては能登町よりも珠洲市のほうが防災意識が高いことがわかった
→震源に近いほど被害を大きく受けているので防災意識が高まる

- ・自宅が津波の想定区域だと知っていたほうが防災意識が高まることが分かった

→改めて危機感を持つことができるのではないか

- ・ほとんどの人は防災対策の中でも手軽な対策をしていた

→手軽なものの方が手をつけやすい

防災対策に時間を費やしたくない

まとめ

- ・最大震度6弱の地震前後でアンケート調査の回答傾向にほぼ差は見られなかった
- ・年齢としては学生よりも成人の方が防災意識が高いことがわかった
- ・地域としては能登町よりも珠洲市のほうが防災意識が高いことがわかった
- ・自宅が津波の想定区域だと知っていたほうが防災意識が高まることがわかった
- ・ほとんどの人は防災対策の中でも手軽な対策をしていた
- ・引き続き震度6弱、6強以上の揺れに襲われることもあり得ることを周知する。

震度6弱の地震前後で変化が小さかった理由の考察

- ・地震やその警報に慣れてしまった可能性がある
 - （≡地震で被害が少なく変化させる必要がないと感じる人がいる）
 - 変える必要がないと考えている

- ・何をすればいいかわからない人がいるから
 - 変えることができない